

# 北アルプス・八方尾根ガラガラ沢スキーツアー

2008年4月13日(日)

メンバー：Take、T(記)

天気：曇り

道の駅「白馬」にて6:00起床、八方ゴンドラ8:00乗車、さらにリフト2本乗り継ぎ、八方池山荘9:30出発。早朝の快適そうなバーンを次々と滑り下ってゆくスキーヤーを尻目に、後立山連山を眺めながら、シール登行。山スキーヤーや下山してくる登山者もちらほらいる。前方には、不帰の険の偉容も見えてくる。石神井ケルン～第二ケルン～八方ケルンにかけてがガラガラ沢の源頭となる。1本奥の無名沢にも数本のシュプールがありそそられる。ガラガラ沢にも、昨日のだろうか、数本のシュプールがある。単独のポーターが滑り込んでゆくのが下方に見えるだけで、我々の貸切り状態だ。



八方ケルン少し上のピークより滑走開始。上部大斜面は快適そのもののザラメで、写真を撮りあいながら思い思いに滑り下る。数本の岳樺のあたりから傾斜が徐々に急になり、



やがて眼下に唐松沢本流も見えてくる。しかし、徐々にシャブ雪になり滑りづらい。最下部は、土砂混じりのデブリを避けながら、本流へ。本流を右岸沿いに滑り、2つ目くらいの堰堤の上で対岸の林道へと渡渉するが、靴に水が少し入ってしまった。堰堤の下にも渡渉点があり、2人のスキーヤーが対岸の急沢から滑り降りてきたところだった。ガラガラ沢の1本下流の沢だと思われる。林道は途中からすっかり雪が消え、ふきのとうを摘みながらのんびり二俣まで。タクシー(¥1600)でゴンドラ乗り場PAへ戻る。荷物を整理していると、ポツリポツリと降ってきた。八方温泉に漬かってから帰路につく。

次回は、もう少し早い時期に訪れて、青空のもと、唐松沢や無名沢を滑りたいものと思った。

